

埋文やまがた



2003年10月31日
第27号



山形市 川前2遺跡住居カマド跡出土遺物の実測

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

ホームページ：www.yamagatamaibun.or.jp

メールアドレス：kenkyuuka@yamagatamaibun.or.jp

発掘調査遺跡年表

2003年 発掘調査トピックス

今年度は国土交通省や、農林水産部・土木部・教育委員会・企業局からの委託を受けて、県内15遺跡の発掘調査を行っています。今回はその中から5遺跡について、発見された生活の跡や当時の人々が残した道具などをトピックスとして紹介します。



年代	時代	今年度発掘調査遺跡	
3万5000年前	旧石器時代	前期	
	旧石器時代	中期	
	旧石器時代	後期	
B.C.1100 (1万3000年前)	縄文時代	草創期	
		早期	高蹴遺跡
		前期	高蹴遺跡 茗ヶ山遺跡 小平4遺跡 高蹴遺跡 百刈田遺跡
		中期	高蹴遺跡 百刈田遺跡
		後期	小平4遺跡 高蹴遺跡
		晩期	高蹴遺跡
B.C.300 紀元前	弥生時代	向河原遺跡	
A.D.1		向河原遺跡	
300 400	古墳時代	梅野木前1遺跡 川前2遺跡 向河原遺跡 百刈田遺跡 助作遺跡	
		梅野木前1遺跡 川前2遺跡 向河原遺跡 百刈田遺跡 助作遺跡	
		梅野木前1遺跡 川前2遺跡 向河原遺跡 百刈田遺跡 助作遺跡	
		梅野木前1遺跡 川前2遺跡 向河原遺跡 百刈田遺跡 助作遺跡	
500 600 700 800 900 1000 1100	飛鳥時代	北向遺跡 百刈田遺跡	
	奈良時代	北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
	平安時代	北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
		北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
		北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
		北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
		北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
		北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
		北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
		北向遺跡 堀端遺跡 堀ノ上遺跡 梅野木前1遺跡 川前2遺跡 茗ヶ山遺跡 向河原遺跡 西山遺跡	
1200 1300 1400 1500 1600	鎌倉時代	向河原遺跡	
	中世	南北朝時代	
		室町時代	
		安土桃山時代	
1700 1800 1900	近世	江戸時代	山形城三の丸跡 米沢城跡 飛泉寺跡遺跡
		江戸時代	山形城三の丸跡 米沢城跡 飛泉寺跡遺跡
		江戸時代	山形城三の丸跡 米沢城跡 飛泉寺跡遺跡
近代・現代			

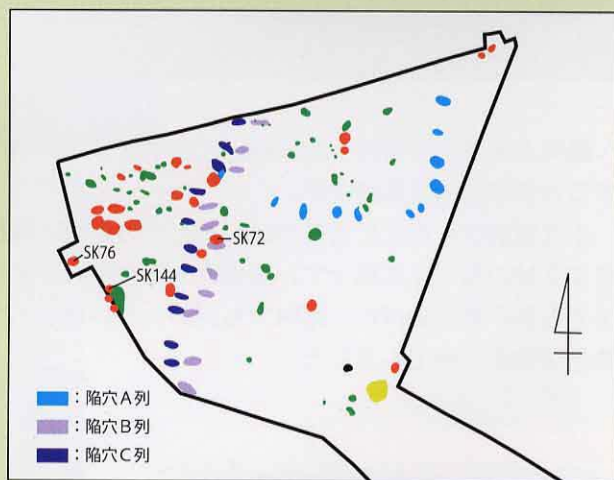
縄文時代の猟場！

たかへぐり
長井市高蹴遺跡



調査区の先には「野川」が流れています。中央部に列をなした陥穴が見えます。

遺跡は、最上川に注ぐ野川に沿った段丘上に立地します。発見された遺構や遺物は、縄文時代中期末から後期初頭のもものが中心です。いちばん多く見つかったのは狩猟のための「陥穴^{おとしあな}」で、40基以上が3列に並んで確認されました。ほかには竪穴住居跡や、貯蔵に使われたであろうフラスコ形をした大小の穴があり、時期によって土地の使われ方が異なっていたことがわかります。



←長さ約3m、深さ約1mの陥穴の底には「逆茂木^{さかむき}」と呼ばれる杭を立てたと考えられる穴が掘られています。



←土器の口縁部に付く獣面把手^{じゅうめんとって}。

縄文後期初頭の注口土器。土瓶形をしており、表面には赤い顔料が塗られています。



古墳時代のアクセサリー！

すけづり
鶴岡市助作遺跡



調査区中央に竪穴住居跡が並ぶ

鶴岡市街地から南西へ約5km、庄内平野の南西端に位置する古墳時代の集落跡です。

主な遺構は、南北に流れる河川跡とその東側に隣接して並ぶ2棟の竪穴住居跡です。遺物は土器が中心ですが、土^ど玉^{たま}や石製の管玉のほか、県内でも例の少ない琥珀玉など装飾品が数多く出土しました。



珍しい琥珀玉



多くの遺物が出土した河川跡



土玉は十数点出土



管玉（石製）

1700年前に地震が！

うめの きまえ 山形市梅野木前1遺跡



山形市江俣の水田地帯に位置する古墳時代前期と平安時代の遺跡で、国史跡「嶋遺跡」に近接しています。

今年度は、上層にあたる平安時代の遺構面と、古墳時代の遺構面のみが残る地区を対象に調査を行いました。このうち、古墳時代の遺構面からは、地震によって引き起こされた「^{ひんき}墳砂」の痕が発見されました。墳砂は震度6相当の大きな地震の際に起きる自然現象で、地割れの間隙から下層の液状化した砂が吹き上げられるものです。左の写真は、断ち割りによる断面検証状況で、下層の砂が噴出している様子がわかります。これまでに県内で確認された中では、最も古い事例として注目されます。

平安時代では、河川跡が見つかり、堆積層の中から多数の墨書土器が出土しました。



↑平安時代の河川跡からは、墨で文字を書いた墨書土器が多く見つかりました。

器の底などに書かれた文字には、「守」・「百」・「吉」・「野」などの漢字があります。



河沿いに開けた住宅団地！

かわまえ
山形市・中山町川前2遺跡



写真上：住居跡は一辺の長さが約3～7mの方形で、奈良・平安時代のものには煮炊き用のカマドが付随します。

左下：住居跡のカマド。袖の部分には使わなくなった甕を据え、芯材としました。

右下：復元された土師器の甕。カマドで据え易いように胴を長くしています。

遺跡は山形市と中山町にまたがって所在します。須川左岸の段丘上に立地し、古墳時代から平安時代にかけて営まれた集落跡です。今年度は遺跡北半部の調査を実施し、これまでに70棟ほどの竪穴住居跡を検出しています。昨年の第1次調査と合わせると170棟以上にもなりました。これらは互いに何棟も重なり合った状態で確認されており、カマドの造り直しや床土を貼り替えるなど、改築や拡張をして住んでいたことがわかります。



塀で囲まれた施設！

ほりはた ままのうえ
長井市堀端・埴ノ上遺跡

埴ノ上遺跡では、奈良～平安時代の塀跡が見つかりました。塀は南東隅が内側に折り返された形をしています。南辺は25mを測り、やや西側に出入り口があります。中の施設は不明ですが、塀の外側には東に竪穴住居跡3棟と畝跡が、西には倉庫と考えられる掘立柱建物跡が確認されました。また、東方約1kmにある堀端遺跡でも、埴ノ上遺跡に似た塀跡と大型の掘立柱建物跡が発見されました。



埴ノ上遺跡全景（上が北）



竪穴住居跡（埴ノ上遺跡）



塀跡の布掘り（埴ノ上遺跡）



掘立柱建物跡と塀跡（堀端遺跡）

国指定史跡

ふるしだひがし 米沢市 古志田東遺跡

米沢市の市街地、その南西端に位置する真新しい住宅街の一角に公園があります。ここは史跡公園として整備された古志田東遺跡です。

古志田東遺跡は平成11年住宅団地の造成に伴って発見されました。発掘調査の結果、9世紀後半から10世紀初頭の、大型建物跡を中心とする7棟の掘立柱建物群や、船着場をもつ河川跡等が検出されました。

主屋とみられる大型建物跡は3間×10間に庇をつけた寄棟造りと考えられ、この時代のものとしては東北地方では最大級の建物跡です。また河川跡からは人工造成による船着場や木橋が検出されました。

そして多量の土師器や須恵器と共に、木簡や農具・修羅・椀・物差し・漆塗りの鏡・桧扇などの木製品がまとめて出土しています。

木簡からは農作業のためや、船着場での荷あげ作業のために、多勢の人々が集められたことがわかります。また稲に関わる木簡も多くあり、なかには品種名と考えられる「狄帯建」という荷札もみられます。

儀式用と考えられる弓や様々な墨書土器、遊具である独楽や碁石も出土しており、これらのことから、律令制度が衰退しつつあったこの時代、大きな屋敷に住み、数多くの労働者や物資を集めることができる有力な豪族が存在していたことがわかります。律令制下において中世の萌芽をうかがえる古志田東遺跡はその豊富な内容から平成12年に国の史跡に指定されました。

(吉田江美子)

Illustration © Kurosaka Hiromi



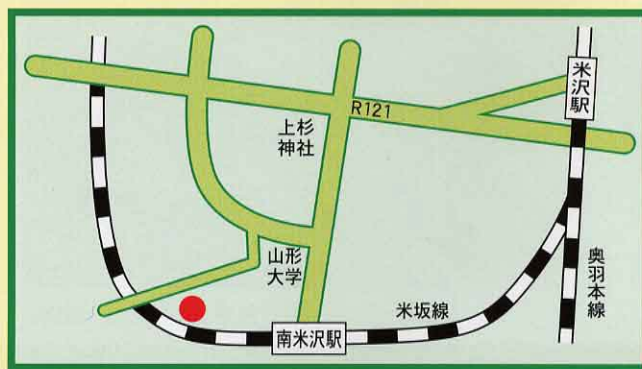
～遂に新旧キャラ対決!! 貫ろく勝ちか下剋上か?!～



掘立柱建物跡や河川跡を復元した史跡公園



古志田東遺跡復元想定図
(出典：米沢市文化財調査報告書第73集)



編集後記

10月に本県で開催された国民文化祭で、当センターは「縄文時代にタイムスリップ」と題して連日ブース出展しました。「弓矢とぼし」などの体験コーナーにて、多くの方々に当時のくらしに触れてもらい、大盛況でした。

11月24日(月)には、例年行っている「発掘調査報告会」を開催します。今回紙面でご紹介した遺跡のほかにも、今年度調査した遺跡の報告を行いますので、ぜひご来場ください。

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただきます。

電話 023(672)5301 (代表)